

基準 2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点 2－1－①：学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）本校の教育目的（資料 2－1－①－1）を達成するため、準学士課程には 5 つの専門学科（機械工学科，電気電子工学科，電子制御工学科，制御情報工学科及び物質工学科）が体系的に編成され設置されていて，各科共通の一般科目を担当する教養科がこれを支えている（資料 2－1－①－2～4）。それぞれの専門学科では，教育課程を一般科目と専門科目が楔形（低学年においては教養・基礎科目を重視し，高学年になるにつれ専門科目や演習，実験・実習等に力を入れること。）となるよう編成し（資料 2－1－①－5），高度な技術へのスムーズな展開を実現している。

資料 2－1－①－1：本校の教育目的

目 的

静岡県東部地区唯一の国立の高等教育機関として，地域産業に寄与する社会的使命と役割を認識しつつ，時代の変化に即応しながら，豊かな人間性を形成する教養教育に力を入れ，専門教育においては，実験・実習及び情報技術を重視した体験的早期専門教育を行い，実践的技術者を養成する。

（出典：本校公式ウェブサイト）

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gaiyou02_1.htm

資料 2－1－①－2：沼津工業高等専門学校学則

第 3 章 学科，学級数，入学定員及び教職員

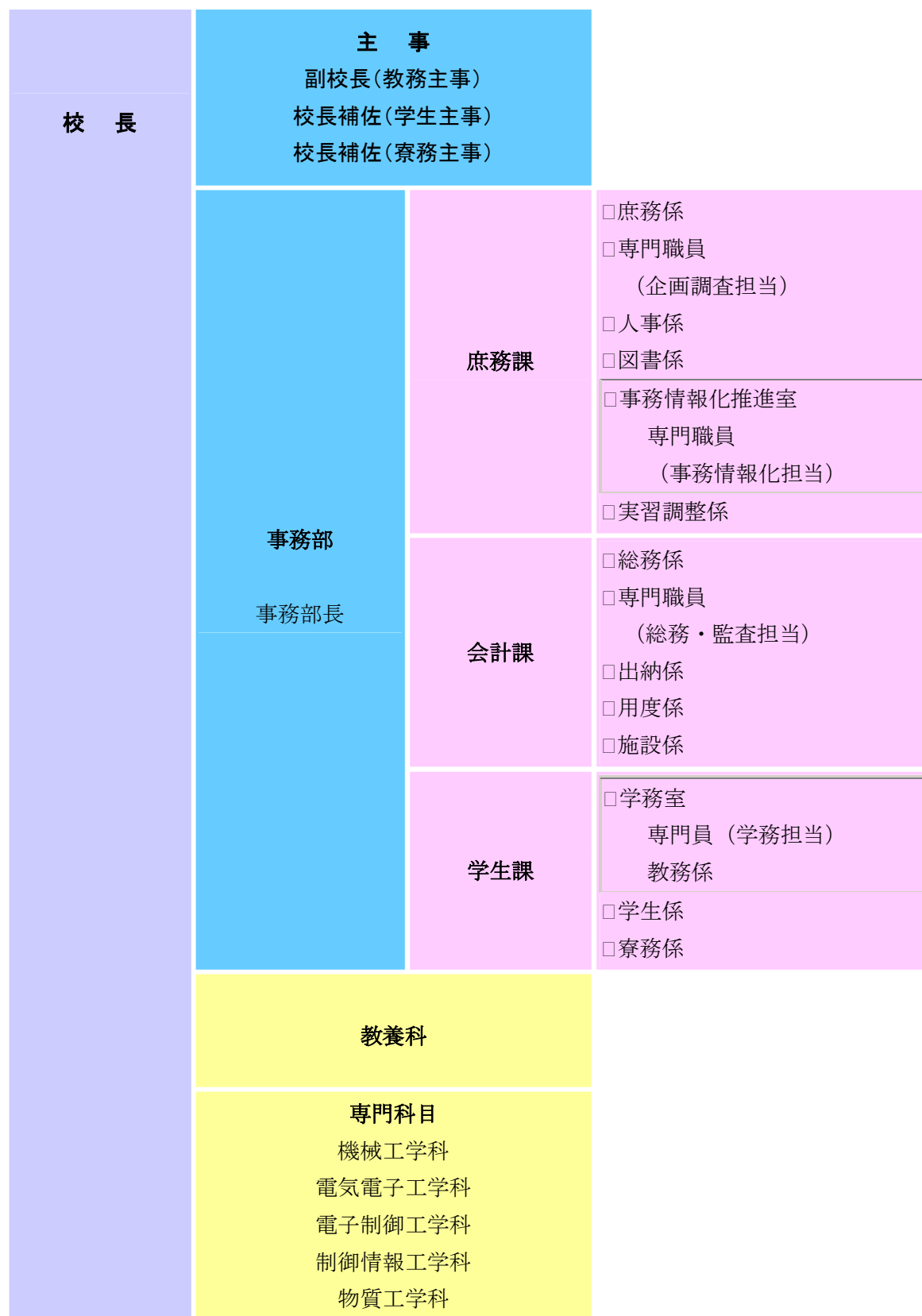
第 7 条 学科・学級数及び入学定員は，次のとおりとする。

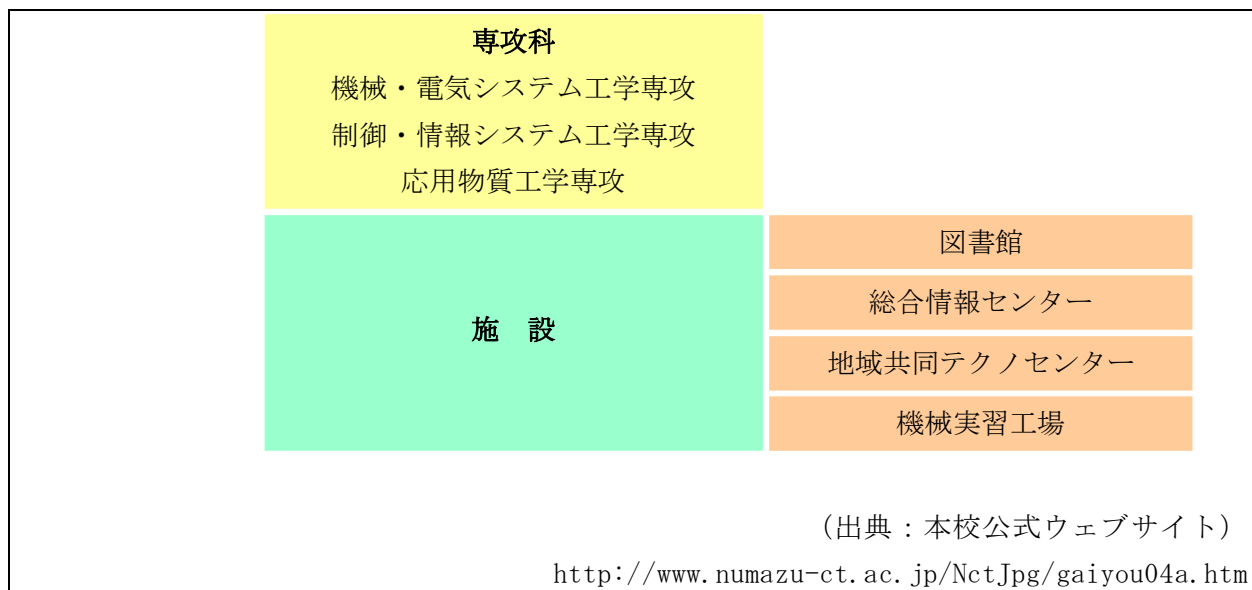
学 科	学級数	入学定員
機械工学科	1	40人
電気電子工学科	1	40人
電子制御工学科	1	40人
制御情報工学科	1	40人
物質工学科	1	40人

（出典：平成17年度学生便覧）

資料 2－1－①－3：組織図

組織図





資料 2－1－①－4：各学科の概要

教 養 科

「教養科」は沼津高専の五つの専門学科に属さない教員集団の組織名である。「教養科」が目指すものは二つある。一つは心身ともに健全な社会人に求められる人間性と常識を養うことである。広範な知識・技能と、適確な思考力・行動力を持ち、豊かな個性と社会性を兼ね備えた沼津高専卒業生を作りたい。もう一つは学生が所属するそれぞれの学科の専門教科を学ぶのに必要な基礎学力を身につけさせることである。

高等学校と大学の教養課程で教えられるほとんどの教科が、1学年次から5学年次まで、専門科目とのバランスを考えて、機能的に配置されている。数学と語学には特に力を入れている。必修のドイツ語(4年次)のほか、5年生の希望者にはフランス語も開講している。

全国の高専に先駆けて設けられた「国際教養」(5年選択)は年々国際化する日本社会の変貌によりよく対応しようとする教養科の姿勢を示す。時代を超えた真理と時代が要請する賢明さを修得させるべく、教養科は柔軟かつ堅固に、限られた条件の下で最も適切なカリキュラムを編成している。

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_G.htm

機械工学科

機械工学科は、機能的に編成されたカリキュラムによって、機械及び装置に関連する諸システムを設計・製造する能力を養成することを主目標としている。低学年から始まる機械工作実習によって基本的製作実技を、さらに5年間にわたる機械設計製図によって製品の設計・製図技術を完全に修得する。材料力学、熱力学、水力学等の主要教科目は基礎科目と密接な連携をとって講義される。さらに、実験・演習を行うことにより機械工学の基幹的技術・知識を学生に体得させている。近年機械技術者に要望されている情報処理・コンピュータ技術は、その教科目に加えて各専門教科目からも多角的に教授して完成度を上げている。また、密度の濃い卒業研究の指導を行い、人格形成とともに研究の進め方を実践的に教授している。

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_M.htm

電気電子工学科

生産ラインの自動化やロボット化を始め、コンピュータやインターネットの普及などによるエレクトロニクス化と情報化が急速に進み、電気電子技術者に対する要求はあらゆる産業で強まっている。電気電子工学科では、回路理論や電磁気などの基礎学習に力を入れるとともに、社会の要請に応えられる電気電子技術者を養成するため、コンピュータ・電子工学・情報通信工学・制御工学・電力工学などの専門分野も教授している。コンピュータではハードとソフト、電子回路ではアナログとデジタル技術の両分野を教育している。さらに、高学年では先端技術に関するテーマを選択科目として開講している。また、電気電子工学実験には情報処理はもとより電子回路の設計・製作・シミュレーション、マイクロ波やレーザーなど基礎から応用まで豊富なテーマを取り入れている。教員と技術職員の全員が、3名から5名の小人数のグループごとに丁寧に指導し、実践的な技術者の育成に努めている。

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_E.htm

電子制御工学科

マイクロプロセッサに代表される集積回路(IC)技術のめざましい発展に伴って、高度な制御技術が、ロボット、自動車、オーディオ機器、医療機器、パーソナルコンピュータなど身近な分野に使われるようになった。これらの機器は、コンピュータ・ソフトウェアを中心として、機械部分、電気・電子部分がひとつの総合的な複合体として組み上げられており、さらに個々の機器が情報ネットワークを介して接続され、より大きな複合体を形成する傾向にある。現在、このような新しい技術分野である電子制御技術が独自に発展しつつある。

本学科では、電子制御技術者の人材育成を目的として、機械工学、制御工学、電気・電子工学、情報工学に関する必要不可欠な要素技術、並びにシステム工学等のシステム統合化技術を学ぶためのカリキュラムと、意欲的に学習できる環境を用意している。特に、体験的学習とチーム学習を重視し、カリキュラムにインターネットを使った情報ネットワークの演習や自律知能ロボットの設計・製作を設けるなど特別の配慮をはらっているほか、電子制御工学科のネットワークやコンピュータールームを常時開放し、学生の便宜を図っている。

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_D.htm

制御情報工学科

制御情報工学科は、コンピュータを応用した複合機器システムを設計・制作し運用できる、情報処理技術に精通した実践的技術者の養成を目標としている。カリキュラムは、情報工学、制御工学、機械工学を重視し、電気・電子工学の関係分野を包含して体系的に編成してある。低学年に対しては、制御情報工学演習において、情報処理のためのコンピュータ言語演習とマイクロプロセッサ制御の自律ロボット製作実習に多くの時間を充てている。高学年に対しては、制御・機械・メカトロニクスに関する実験、コンピュータを活用したシミュレーションやデータ処理などの演習を体験を通して教育する。卒業研究は5年間の一貫教育を総括する教科であり、個別指導のもとに具体的な問題の発見と解決を体験させ、創造力の育成をめざしている。

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_S.htm

物質工学科

物質は原子の集合であり、無生物と生物に二分される。したがって物質工学とは人類に有用な物質を見いだして利用する、又は、有用な物質を新規に作り出す学問ということになる。

物質工学科では物質の組成、構造、変化について基礎的理解を示し、化学的又は生物化学的に物質を製造する技術者の養成を目標に、カリキュラムを編成している。分析化学、微生物学、無機化学、有機化学、生物化学、物理化学、化学工学の順に講義と実験によって物質工学の基礎を学ぶ。さらに4年から「材料化学」と「生物工学」の2コースに別れて、それぞれに必要な工学技術を学ぶ。「材料化学」のコースでは無機材料や高分子・有機材料の製造・物性・分析など、「生物工学」のコースでは分子生物学、酵素・細胞・遺伝子などを中心に学ぶ。

創造性の開発、自発的態度の育成、実践的技術の習得を目的として、科学英語などに小人数のセミナー形式を取り入れ、総仕上げに卒業研究を行う。以上により化学工業、医薬品工業、食品工業などの研究開発・生産技術分野で活躍できる人材の養成を目指している。

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_C.htm

(出典：本校公式ウェブサイト)

資料 2-1-①-5 一般科目と専門科目の学年別単位配分の例

機械工学科

■授業科目	■単位数	■学年別配当					■備考
		1	2	3	4	5	
専門科目合計							
必修科目合計	91	8	9	19	26	29	
選択科目合計	2	－	－	－	－	2	標準履修単位数
履修科目合計	93	8	9	19	26	31	
一般科目合計	84	27	25	18	8	6	
合計	177	35	34	37	34	37	
選択科目(専門)							
開講単位数	12	－	－	－	6	6	

(出典：本校公式ウェブサイト)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/cal_M1.htm

(分析結果とその根拠理由) 相応である。学科構成は、工業の幅広い分野を包含し、それぞれ一般教養と専門分野をバランスよく教授する教育課程が整えられており、高等専門学校設置基準に沿っている。また各学科とも、本校の教育目的(前出資料 2-1-①-1)及び学校教

育法でいうところの「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」（学校教育法第70条の2）を念頭に置いた内容を備えている。

観点 2-1-②：専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）専攻科課程には、専攻科教育目的（資料 2-1-②-1）を達成するために 3 専攻（機械・電気システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、応用物質工学専攻）が設置されている（資料 2-1-②-2 及び 3）。これらの 3 専攻が、単一の技術者教育プログラムである「総合システム工学」を構成していて、その要件を定め、教育目標を達成するためのカリキュラム作成の指針としている（資料 2-1-②-4～6）。

資料 2-1-②-1：専攻科教育目的

専 攻 科

I. 【目的】

沼津高専専攻科の目的は、次の 3 点です。

1. 研究指導を通じた工学に関する深い専門性を教育する。
2. 創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成する。
3. 産業社会との学術的な協力と地域社会の産業と文化の進展に寄与する。

（出典：本校公式ウェブサイト）

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_A.htm

資料 2-1-②-2：沼津工業高等専門学校学則（抜粋）

第 9 章 専攻科

第46条 専攻科の専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

専攻	入学定員
機械・電気システム工学専攻	8 人
制御・情報システム工学専攻	8 人
応用物質工学専攻	4 人

（出典：本校規則集）

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0010_gakusoku.htm

資料 2－1－②－3：専攻科概要

【専攻科概要】

1950 年代後半～60 年代初頭、欧米に「追いつけ、追い越せ」というのは日本の工業にとっての課題でした。欧米に「手本」があって、日本の技術者はその「手本」に沿って「ものづくり」に邁進することが求められた時代です。高専が誕生したのはその頃です。従って、高専では「効率的なものづくり」を実現するため、早期専門教育を中心とした即応的なものづくり教育が行われてきました。高専教育が日本の高度経済成長を支え、国民生活向上の一端を担ったことは、産業界からも高く評価されています。

1980 年代後半～90 年代初頭、日本の工業にとっての課題は「世界をリードする技術の創造」へと変わってきました。「手本」なき技術革新の時代が始まりました。こうした変化の過程で、高専教育も「即応的なものづくり教育」から「基礎学力に立脚した総合的な技術教育」へと、社会からの要求の変化への対応を迫られることになりました。勿論、こうした幅広い対応は、既存の5年制教育で行うのではなく、2 年間の教育課程を付加して、7 年間の教育課程を構築して行うものです。これが高専に専攻科が設置された意義であります。

時代の変化と、それに対応すべき高専教育の充実が「高専＋専攻科」によって図られようとしています。専攻科は「総合システム工学」にふさわしい、充実したカリキュラムを提供します。沼津高専専攻科は「やる気のあるエンジニア」を育てるところです。

（出典：本校公式ウェブサイト）

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/gakka_A.htm

資料 2－1－②－4：沼津工業高等専門学校学則（抜粋）

第 9 章 専攻科

第46条の 3 第46条に規定する 3 専攻は、別表第 3 に定める単一の技術者教育プログラムである総合システム工学を構成する。

2 総合システム工学は、別に定める総合システム工学要件を満たさなければならない。

（出典：本校規則集）

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0010_gakusoku.htm

資料 2-1-②-5 : 総合システム工学体系

別表第3

総合システム工学体系

専 攻 科

		基礎工学分類Ⅰ 設計・システム系	基礎工学分類Ⅱ 情報・論理系	基礎工学分類Ⅲ 材料・バイオ系	基礎工学分類Ⅳ 力学・数理・解析系	基礎工学分類Ⅴ 社会・技術連関係
1	工学共通基礎		マルチメディア・ ネットワーク 化学データ解析	材料強度論 結晶化学 生物化学工学	現代物理学 量子力学 熱統計物理学 応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 応用数学Ⅲ	工学倫理 地球環境学 エネルギーと社会
2	専門工学系 (機械工学)	システム制御 工学 振動制御工学 ロボット制御 工学 適応制御工学		工業材料 塑性加工学 表面工学	流体力学 応用伝熱学 音響工学 流体エネルギー 変換工学	
3	専門工学系 (電気電子工学)	集積回路設計 電磁波工学Ⅱ パワーエレクト ロニクス特論 電力制御機器工学	信号処理 通信処理	電気電子材料 電子デバイス	電磁波工学Ⅰ 電気機器学特論 電磁エネルギー変 換工学	
4	専門工学系 (情報工学)	計算機アーキ テクチャー 数 値 シ ミ ュ レーション オブジェクト 指向プログラ ム設計	有限オートマト ンと言語理論 アルゴリズムと データ構造 プログラム言語 計算機システム 画像処理工学 地理情報学 化学情報学 ネットワーク		計算力学 計算流体力学	
5	専門工学系 (応用化学・ 生物工学)	有機材料設計 環境安全工学		有機化学 微生物工学 食品保存工学 生物生産工学 材料物理化学	反応速度論	

(出典：平成17年度学生便覧)

資料 2—1—②—6：専攻科総合システム工学要件

1. 沼津工業高等専門学校専攻科総合システム工学要件

沼津工業高等専門学校学則第 46 条の 3 第 2 項に基づき総合システム要件を定め、専攻科生が習得すべき知識・能力を以下に示す。

なお、「総合システム工学」とは、基礎工学並びに機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のいずれかの領域工学に関する専門的知識・能力を統合した工学をいう。

1 基礎能力

基礎能力とは、学則別表第 3 総合システム工学体系（以下「別表第 3」という。）における工学共通基礎（一部の専門工学系も含む）において、数学系、物理学系、化学系、環境科学系科目及び情報技術基礎のうち、最低 6 科目を取得して得られる専攻科教育目標の(2)に対応する知識とそれらを用いた問題解決能力を意味する。

(1) 数学、応用数学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力：

- ① 解析学の基礎、微分方程式、数値解析及びそれらの応用は、別表第 3 の基礎工学分類Ⅳの応用数学Ⅰで授業する。
- ② 確率と統計及びその応用は、別表第 3 の基礎工学分類Ⅳの応用数学Ⅱで授業する。
- ③ 線形代数学及びその応用は、別表第 3 の基礎工学分類Ⅳの応用数学Ⅲで授業する。

(2) 一般物理学、一般化学、分子生物学、遺伝子工学、環境科学の基礎知識とそれらを用いた問題解決能力：

- ① 一般物理学については、別表第 3 の基礎工学分類Ⅳの現代物理学、量子力学及び熱統計物理学のいずれの教科目においても授業する。
- ② 一般化学については、別表第 3 の基礎工学分類Ⅲの結晶化学で授業する。
- ③ 分子生物学については、別表第 3 の基礎工学分類Ⅲの生物化学工学で授業する。
- ④ 遺伝子工学については、別表第 3 の基礎工学分類Ⅲの生物生産工学で授業する。
- ⑤ 環境科学については、別表第 3 の基礎工学分類Ⅴの地球環境学で授業する。

(3) 情報技術の基礎知識及びそれらを用いたコミュニケーション能力：

情報技術基礎に関する授業は、別表第 3 の基礎工学分類Ⅱにおける教科目で、授業する。

2 基礎工学並びに専門工学の知識・能力

(1) 基礎工学の知識・能力とは、以下の 5 系からなる基礎工学の中から、少なくとも 5 科目、合計最低 6 科目を取得して得られる；専攻科教育目標の(1)，(2)，(3)に対応する知識・能力を意味する。

- ① 設計・システム系科目群（別表第 3 における基礎工学分類Ⅰ）
- ② 情報・論理系科目群（別表第 3 における基礎工学分類Ⅱ）
- ③ 材料・バイオ系科目群（別表第 3 における基礎工学分類Ⅲ）
- ④ 力学・数理・解析系科目群（別表第 3 における基礎工学分類Ⅳ）
- ⑤ 社会・技術連関係科目群（別表第 3 における基礎工学分類Ⅴ）

(2) 専門工学の知識・能力とは、専攻科研究、実験、演習、実習並びに別表第 3 において専門工学系に分類され、専攻科教育目標の(1)，(2)，(3)，(4)，(5)に対応する教科目を取得して得られる知識であり、以下に示す能力である。

- ① いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力
- ② 工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探究し、組み立て、解決する能力
- ③ 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力

（出典：平成 17 年度学生便覧）

(分析結果とその根拠理由) 相応である。専攻科課程の3専攻は準学士課程の各専門学科に対応し、さらに第1学年から第3学年までの工学技術導入教育の成果を引き継ぎつつ、第4学年並びに第5学年の体験重視型早期専門教育の後を受け継いで、研究指導を通じて得られる領域工学(機械工学, 電気電子工学, 情報工学, 応用化学・生物工学)に関する深い専門性を基に、社会の要請に応え、文化の進展に寄与することのできる創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成する教育を実現している。

観点2-1-③: 全学的なセンター等が設置されている場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況) 本校には、全学的なセンター等として、機械実習工場・総合情報センター・地域共同テクノセンターの3つが設置されている(前出資料2-1-①-2並びに資料2-1-③-1及び2)。

資料2-1-③-1: 総合情報センター規則

○沼津工業高等専門学校総合情報センター規則

(平成17.3.9制定)

(設置)

第1条 沼津工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、総合情報センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第2条 センターは、学内情報基盤の維持管理、運用及び設計並びに学内情報資源の有効活用のための企画、調整及び技術支援等を行うとともに、学内全般の情報リテラシー教育の中心的役割を担うことを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 学内情報基盤の維持管理、運用及び設計に関すること。
- (2) 学内情報ネットワークのセキュリティ管理に関すること。
- (3) サブネットワーク運用の調整及び技術支援に関すること。
- (4) 学内情報資源の有効活用のための企画、調整及び技術支援に関すること。
- (5) 学生及び教職員に対する情報リテラシー教育に関すること。
- (6) 事務情報化の推進に関すること。
- (7) 高等専門学校情報処理教育研究委員会に関すること。
- (8) プログラミングコンテスト学内審査に関すること。
- (9) その他センターの目的を達成するために必要な事項

(組織)

第4条 センターに、次に掲げる教職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センターの専任教員
- (4) 各学科及び教養科から選出される教員 各1人以上
- (5) 事務部から選出される事務職員及び技術職員 若干人

(6) その他校長が指名する教員 若干人

- 2 センター長は、本校の教授の中から校長が任命する。
- 3 センター長は、センターに関する業務を掌理する。
- 4 副センター長は、第5条第3項に規定する部門長の中からセンター長の推薦に基づき校長が任命する。
- 5 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 6 第1項第4号及び第5号の教職員の選出に当たっては、事前に学科長、教養科長又は事務部長とセンター長が協議を行うものとする。
- 7 第1項第3号、第5号及び第6号の教職員は、第3条に規定する業務を分担して従事するものとする。
- 8 第1項第4号の教員は、第3条に規定する業務を分担して従事するとともに、各学科等との連絡調整を行うものとする。
- 9 第1項第1号、第2号、第4号及び第6号の教員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(部門)

第5条 センターに、第2条の目的を達成するため、次の部門を置く。

- (1) ネットワーク管理部門
- (2) 情報資源活用部門
- (3) 情報教育部門
- (4) 事務情報化推進部門
- 2 各部門は、次に掲げるセンターの業務を分担し、相互に連携協力してセンターの業務を円滑に遂行しなければならない。
 - (1) ネットワーク管理部門 第3条第1号から第3号までの業務
 - (2) 情報資源活用部門 第3条第4号及び第7号の業務
 - (3) 情報教育部門 第3条第5号及び第8号の業務
 - (4) 事務情報化推進部門 第3条第6号の業務
- 3 各部門に、部門長を置く。
- 4 第1項第1号から第3号までの部門長は、第3条に規定する業務に従事する教員のうちからセンター長が指名するものを、同項第4号の部門長は庶務課長をもって充てる。
- 5 部門長（第1項第4号の部門長を除く。）の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター運営会議)

第6条 本校に、センターの管理運営の基本方針、事業計画その他センターの運営に関し必要な事項を審議するため、センター運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

- 2 運営会議は、本校総務委員会委員（校長を除く。）で組織する。
- 3 運営会議に議長を置き、副校長をもって充てる。
- 4 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名した委員が、その職務を代行する。
- 5 運営会議は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くこと

ができる。

(センター委員会)

第7条 センターに、当該センターの円滑な運営を図るため、センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、第4条第1項に掲げる教職員で組織する。

(センター企画会議)

第8条 センターに、第5条に規定する各部門の運営に関する連絡調整を図るため、センター企画会議（以下「企画会議」という。）を置く。

2 企画会議は、センター長及び部門長で組織する。

(事務)

第9条 センターに関する事務は、庶務課において処理する。

(細目)

第10条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な細目は、校長が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。

2 沼津工業高等専門学校情報処理教育センター規則（昭和55年9月1日制定）は、廃止する
(出典：本校規則集)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/1081_sougou-jouhou-center.htm

資料2—1—③—2：地域共同テクノセンター規則

○沼津工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則

(平成15.3.12制定)

(設置)

第1条 沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、地域共同テクノセンター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第2条 センターは、総合技術開発能力のある学生の育成並びに地域産業界等との共同研究の推進及び地域産業の振興に寄与するとともに、本校における教育研究の充実発展に資することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 総合技術開発能力のある学生の育成に関すること。
- (2) 学科間の横断的な研究協力及びその支援に関すること。
- (3) 地域産業界等との共同研究及び受託研究の推進に関すること。
- (4) 地域産業界等に対する技術相談、講習会、セミナー等に関すること。
- (5) 社会人を対象としたリフレッシュ教育に関すること。
- (6) 小中高生を対象とした体験教育に関すること。
- (7) その他センターの目的を達成するために必要な事項

(組織)

第4条 センターに、次に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
 - (2) 副センター長
 - (3) 各学科及び教養科から選出される教員（以下「センター員」という。） 各1人
 - (4) その他必要な職員
- 2 センター長は、本校の教授の中から校長が任命する。
 - 3 センター長は、センターに関する業務を掌理する。
 - 4 副センター長は、本校の教授又は助教授の中から校長が任命する。
 - 5 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故があるときは、その職務を代行する。
 - 6 センター員は、上司の命を受け、センターの業務に従事する。
 - 7 センター長、副センター長及びセンター員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第5条 センターの円滑な運営を図るため、センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会は、次に掲げる事項を審議する。
 - (1) センターの管理運営の基本方針に関すること。
 - (2) センターの利用に関すること。
 - (3) センターの将来計画に関すること。
 - (4) その他センター長が必要と認める事項
- 3 委員会は、次に掲げる委員で組織する。
 - (1) センター長
 - (2) 副センター長
 - (3) センター員
 - (4) 事務部長
 - (5) その他校長が指名する者 若干人
- 4 前項第5号の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。
- 6 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 7 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事務)

第6条 センターに関する事務は、庶務課において処理する。

(細目)

第7条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な細目は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成15年3月12日から施行する。
- 2 沼津工業高等専門学校科学技術相談室運営委員会規則（平成3年10月16日制定）は、廃止する

（出典：本校規則集）

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0250 techno-center.htm>

＜機械実習工場＞

機械実習工場は、機械工作実習教育用として設立され、その他に卒業研究及び教員研究用実験装置の製作等にも対応し、全学科の学生を対象に機械工学の基礎教育用施設として機能している（資料2-1-③-3）。2棟の工場建物内に各種設備が設置され（資料2-1-③-4）、機械製法担当教員と専任技術職員が連携して教授内容を吟味し、全設備が学習内容に有機的に活用されている。また、技術の実習のみならず、安全教育についても配慮して教育している（資料2-1-③-5）。

資料2-1-③-3：実習工場時間割（平成17年度）

前期時間割

曜日	1	2	3	4	5	6	7	8
月			M 3		M 3			
火					M 4			
水		E 3				M 1		
木					M 2			
金	C 5					卒研		

後期時間割

曜日	1	2	3	4	5	6	7	8
月			M 3		M 3			
火		S 4			M 4			
水						M 1		
木					M 2			
金		D 2				卒研		

（出典：本校公式ウェブサイト）

<http://www.kikai.numazu-ct.ac.jp/kojo/jikan.html>

資料 2－1－③－4：実習工場内主要設備

CAD/CAMシステム一式/DNCシステム一式/CNC旋盤 1 /立形マシニングセンター 1 /横形マシニングセンター 1 /精密ワイヤー放電加工機 1 /自動立フライス盤 1 /汎用旋盤10/タレット旋盤 1 /精密高速旋盤 1 /立てフライス盤 1 /万能検フライス盤 1 /倣いフライス盤 1 /横中ぐり盤 1 /平面研削盤 1 /万能工具研削盤 1 /万能円筒研削盤 1 /ホブ盤 1 /形彫放電加工機 1 /万能試験機 1 /油圧プレス 1 /クランクプレス 1 /剪断機 1 /帯のこ盤 1 /直立ボール盤 1 /卓上ボール盤 3 /電気溶接機 2 /TIG溶接機 1 /MIG溶接機 1 /自動溶断 2 /非鉄金属溶解炉 1 /工具顕微鏡 1 /測微機 1 /万能投影機 1 /ハイトマスター 1 /工作測定用工具一式

(出典：平成17年度学生便覧)

資料 2－1－③－5：実習安全教育

実習安全教育

一般心得

1. 正しい服装で自分の身なりをきちんと整えること。身なりが整えば自然に心も引き締まる。緊張した心で実習を行えば、技術の向上があるのみでなく、怪我をすることも無い。
2. 規律を重んずること。
3. 実習工場の発展は自己の幸せになることを知り、時間や品物を無駄にしないこと。
4. 油断は災害のもと、不注意は過失のもと、怠慢は失敗のもととなることを十分に心がけること。
5. お互いに礼儀を守り、他人をそしめることのないようにすること。
6. 材料や作品の上に乗ったり跨いだりしないこと。
7. 危険な個所を発見した時は直ちに注意し合うこと。
8. 工場内を走らないこと。
9. 配電盤等に触れないこと。
10. 長時間の実習によって疲れても、機械等にもたれたりしないこと。

11. 工場内では携帯電話等の電源を切っておくこと。

実習作業全般における注意事項

1. 機械類のベッド等をふき、注油個所には指定の油をさすこと。
2. 実習中無断で機械から離れぬこと。止むを得ず離れる場合には指示を受け、必ず機械を停止して離れること。
3. クラッチやギヤの掛け外しは停止してから行うこと。
4. 図面を良く読み、寸法及び注意事項を見誤らないようにすること。
5. 寸法を測る場合は、機械を止めること。
6. ワークをはずす前に切削屑等を払うこと。
7. ワークや工具の取り付けのゆるみやガタに注意すること。
8. 切り込みを入れたまま、或いは送りを掛けたまま、機械を止めないこと。
9. 使用法がのみ込めないものを適当に使用しないこと。
10. 機械の異常を認めたならば、直ちに申し出ること。
11. 実習中は、脇見や談話をしないこと。
12. テーブルやベッドの上に工具類を置かぬこと。
13. 工具類は常に整理整頓しておくこと。
14. 工具の取り扱いは丁寧にすること。
15. スパナ類、ゲージ、測定器をハンマ等の代わりとして使用しないこと。
16. スパナは必ずナットにあったものを用いること。

鍛造における注意事項

1. 加工中及び加工直後は、直接手で触れないこと。
2. 酸化物が飛散することがあるので注意する。
3. 箸は製品にあったものを使用すること。
4. 冷めた材料は打たないこと。
5. ハンマを振る時は、周囲を見渡してから行うこと。

鑄造作業における注意事項

1. 炉前にむやみに近づかないこと。
2. 湯つぎをした後はその口を覗かないこと。
3. 湯を運ぶ時はあらかじめ通路を決め、ならしておくこと。
4. 材料を取り出した時は火傷をする場合があるので手で触らないこと。

溶接作業における注意事項

1. ぬれた服装は厳禁。
2. 危険なガスを取り扱うため、使用に際しては十分注意を払うこと。
3. 実習中は指定された保護めがね及び手袋を使用すること。
4. 火花が飛ぶ場合があるので服装を整えること。
5. ボンベは指示なくして移動しないこと。
6. 吹管の吸い込み試験を必ず行い、異常を認めたならば、直ちに申し出ること。
7. 場所を長時間離れる場合はボンベの弁を閉めること。

プレス作業における注意事項

1. 機械を操作する時は、回りを確認すること。
2. 材料の取り付け取り外しは注意して行うこと。
3. 型の取り付け取り外しは慎重に行うこと。
4. 安全装置に触れないこと。

測定における注意事項

1. 測定器は丁寧に取り扱い、静かに置くこと。
2. 測定以外の目的に使用しないこと。
3. 測定範囲をこえて使用しないこと。

旋削加工における注意事項

1. チャックの爪の緩みを再度確認すること。
2. 切削中バイトに手を触れないこと。
3. 心押し台を使用しない時は、できるだけ、端の方に寄せてクランプしておくこと。
4. チャックの爪等がフラットより出ないようにすること。

5. 送りを掛けた時はハンドルに注意すること。
6. チャックハンドルは使用后、必ず外すこと。
7. 工具類をベッドの滑り面に置かないこと。

フライス削り加工における注意事項

1. テーブルの上に工具類を置かないこと。
2. テーブルの溝にある切り屑は常に取り除くこと。
3. テーブルの溝にあったT型ナットを使用すること。
4. 万力を使用する場合は、テーブル上面と万力の底面をきれいにすること。
5. 注油は指定の油を使用すること。
6. 切削中に送り及び回転を止めないこと。
7. 万力にワークを確実に固定すること。
8. ギヤ等の変速は機械を止めてから行うこと。

研削加工における注意事項

1. 材料の取り付けは確実にすること。
2. 砥石の破損、ワークの飛散を考え、加工中は砥石の回転方向には立たないこと。
3. 必要以上の切り込みを入れないこと。
4. ワークの取り付け取り外しは、砥石が停止していることを確認のうえ行うこと。
5. 加工終了後はしばらく、砥石を回転させておくこと。

穴あけ加工における注意事項

1. 小さな穴でもなるべく治具等を使用して行うこと。
2. 穴あけ加工中にワークが回されたならば、直ちにスイッチを切ること。
3. 薄物の穴あけは抜け際にワークが振り回されることが多いので注意すること。

NC機における注意事項

1. 機械稼働中は機械の扉を開けないこと。
2. プログラムチェックを行うこと。
3. 使用する工具を確認すること。

4. 加工前に空運転を行うこと。
5. むやみに操作盤に触れないこと。

CAD/CAMにおける注意事項

1. LOGIN する場合，指定された名前を使用すること。
2. 図面等を出力する場合，出力先及び用紙を確認すること。
3. 指定されたドライブ以外に登録しないこと。

(出典：本校公式ウェブサイト)

<http://www.kikai.numazu-ct.ac.jp/kojo/anzen.html>

＜総合情報センター＞

総合情報センターは，情報処理機器の活用能力を養うため，1 年次より全学科の学生を対象にコンピュータを利用した情報処理教育を行っている（資料 2—1—③—6）。また，2 年次以降においては，各学科の専門科目に関連した情報処理教育が行われ，情報技術に強い技術者養成に中心的な役割を担っている。総合情報センターには，専任の教員，技術職員を擁しており，教育研究環境の維持，向上に努めている。なお，授業で使用している時以外の時間帯では，昼休みに第 1（49 台），第 2 演習室（25 台）の計算機はほぼ全て利用されていて，放課後の利用者も多い。また，授業開始前早朝の利用者も，第 1 演習室が満員になるほどである。このような状況を考慮して，正規には放課後 17 時 15 分までの利用時間であるところ，実際には教職員のいる限り学生に開放しており，正規利用時間の延長を検討している。

教育用の計算機は，ハードウェア，ソフトウェアの技術の進歩に対応できるよう定期的に更新する必要があるため，平成 17 年度より計算機システムを，ディスプレイは CRT（ブラウン管）から液晶（17 インチ）のものに変え，パソコン本体もスリムなタイプにしたため，机上が広がり教科書やノートを使用し易く，机の向きも前向きに変えることができ，対面授業となり，学生は講義を聴きやすく，講師は学生の反応を把握しやすい，スクールキャップという教師側から学生のコンピュータ画面をコントロールするソフトも導入し，教師用コンピュータの画面を投影するプロジェクタを 100 インチサイズの大画面に更新し，より一層教育効果を高めることを図った。

資料 2—1—③—6：総合情報センター時間割

平成17年度前期時間割

	月	火	水	木	金	
1	情報処理基礎 C1	情報処理基礎 E1	情報処理基礎 S1	数値解析 M4	プログラミング E3	
2						
3	アルゴリズム と データ構造 専攻科1	数値解析 S4	プログラミング 演習 M2	情報処理基礎 D1		
4						
5		電気電子工学 実験 E2 (文学特論 S4)	情報処理基礎 M1	電気電子工学 実験 E3	(文学特論 M4)	
6						
7		電気電子工学 実験 E2				
8						
9			日本事情 留学生			
10						

() 書きは不定期で利用されるもの

(出典：平成16年度情報処理センター自己点検書)

＜地域共同テクノセンター＞

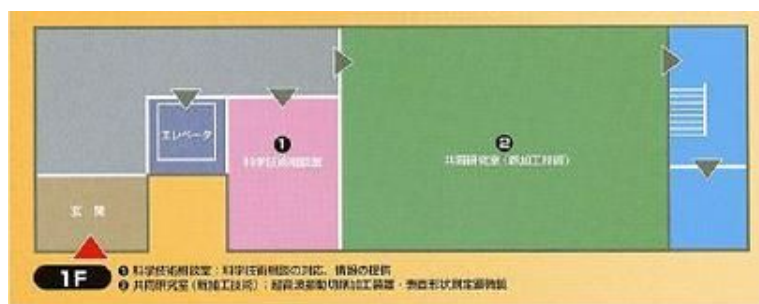
地域共同テクノセンターは、3つの研究室（新加工技術研究室、環境工学研究室、メカトロCAD/CAM・電子応用研究室）を中心に最新の設備と研究環境の中で、具体的な実験・試験・解析等を実施できるよう体制を整備し（資料2-1-③-7）、総合技術開発能力のある学生の育成、地域産業界等との共同研究、受託研究及び受託試験の推進並びに地域産業の振興に寄与している（資料2-1-③-8）。

資料2-1-③-7：地域共同テクノセンター概要

施設の概要

地域共同テクノセンター棟

1階 新加工技術研究室



◇主な設備

1. 超音波振動切削加工装置

（難削金属，CFRP・GFRP等の複合材料の経済的高精度加工技術の開発）

- ・立形マシニングセンター (株)「牧野フライス製作所製 V33
- ・超音波振動切削装置 エンドミル仕様 富士工業 (株)製
周波数27kHz，出力300Wの超音波ねじり振動

2. 表面形状測定顕微鏡 (株)キーエンス VK8500

（顕微鏡をのぞく感覚で，nmレベルの世界をカラーで観察できる）

最小測定分解能：0.01μm，測定範囲：70×70×28mm

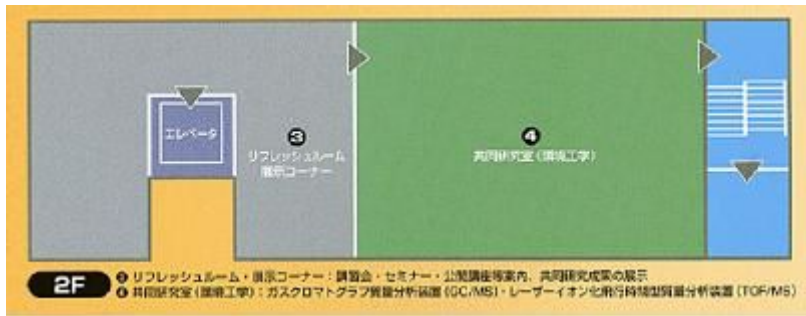
測定対象物：金属，樹脂，セラミックス，ガラス，カラートナー

食品・微生物，病理組織，高分子材料，薄膜

アプリケーション：プロファイル計測，粗さ計測，面粗さ計測，

表面積・体積計測，各種平面計測

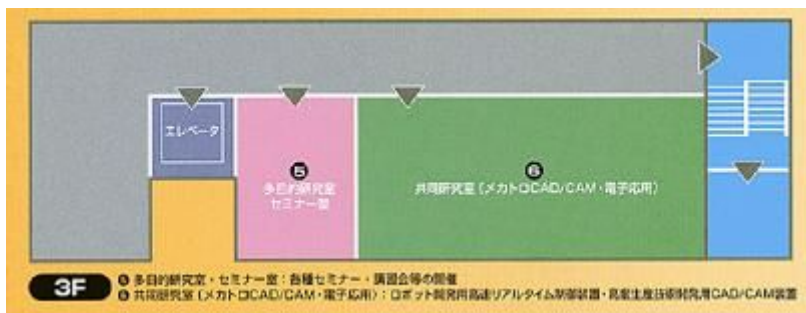
2階 環境工学研究室



◇主な設備

- ・ガスクロマトグラフ質量分析装置 (GC/MS)
（低分子量の有機分子の高感度な検出，および構造解析）
環境分析，食品分析，薬剤の分析，石油化学製品の分析に有効
- ・レーザーイオン化飛行時間型質量分析装置 (TOF/MS)
（タンパク質を含む高分子量有機化合物の構造解析）
微量な試料で高分解能の質量分析が可能
- ・その他 物質工学科 設置分析機器
クロマトグラフ（GC，LC，イオン），NMR，FT-IR，
蛍光分光光度計，紫外可視分光光度計
DNA シークエンサー，プロテインシークエンサー

3階 メカトロCAD/CAM・電子応用研究室



◇主な設備

- ・ロボット開発用リアルタイム制御装置
（メカトロ製品の試作段階における制御系の研究開発の短縮化をはかる）
精密モデルシミュレータ (MATLAB, Simulink 他)
開発用リアルタイム制御装置

制御系開発およびモニタ (Real Time Work Shop 他)

リアルタイム制御システム (DSP 開発システム)

・高度生産技術開発用 C A D / C A M 装置

(3次元立体の測定から加工まで生産技術開発と生産性の向上をはかる)

C A D ソフト (SolidWorks2003)

C A M ソフト (MasterCAM 9.1 MillLevel3)

3軸, 5軸ミールング, 3軸NCシミュレーション, 旋盤, 放電加工用

非接触3次元測定器 (MINOLTA Vivid910)

3次元立体のレーザ測定とモデル化, 検証

その他の校内設備

電気電子・物性関連

メカトロラボ 2 P C (各種回転機の実験・組み立て等), パワトロラボ (各種電力用半導体素子の特性測定と応用), 波形デジタイザ (μ s オーダの波形メモリー), アナライジングレコーダ (高調波分析機能あり), デジタルパワーメータ (3 相), R F マグネトロンスパッタリング装置 (200W), D C マグネトロンスパッタリング装置 (200W), 真空蒸着装置, X線回折装置 (粉末), 分光光度計 (可視, 近赤外 180~2500nm), 回路基盤 C A M, 構造物振動解析装置, マルチチャンネルデータステーション, マルチパーパス FFT アナライザー, アコースティックエミッション (A E) 計測装置, P 1 C, C P L D 開発キット一式, D S P 開発ツールキット, 小型風洞

機械・材料・加工関連

電子顕微鏡付き疲労試験機 (2 kN), 超高サイクル疲労試験機 (5 kN), 疲労試験機 (9 8 kN), 精密万能試験機 (9 8 kN), 万能試験機 (490kN), C N C 平面研削盤, N C 立フライス盤, 超音波ねじり振動切削装置 (施削用, 穴加工用), 卓上簡易計測・加工装置 (Roland DG MDX-15), 液体ホーニング装置, ブラストドレッシング装置, 油圧源ユニット (最大圧力 2 0 M P a, 最大流量 9 0 L / min), 水圧源ユニット (最大圧力 1 4 M P a, 最大流量 30 L / min), タービン流量計, 歯車型流量計, 騒音計測システム, 大判プリンタ (B 0 サイズ対応)

物質工学関連

蛍光 X 線分析装置, 原子吸光光度計, イオンクロマトグラフ, X線回折装置, フーリエ変換核磁気共鳴装置 (FT-NMR), D N A シークエンサー, プロテインシークエンサー, 可視紫外分光光度計, フーリエ変換赤外分光装置 (FT-IR), 蛍光分光光度計, ガスクロマトグラフ (GC), 高速液体クロマトグラフ (HPLC)

(出典: 本校公式ウェブサイト)

<http://techno.numazu-ct.ac.jp/gaiyou.html>

資料 2 — 1 — ③ — 8 共同研究・受託研究申請一覧表

通番	申請 日付	研究 題 目	沼津高専の 研究担当者	経 費	通番	申請 日付	研究 題 目	沼津高専の 研究担当者	経 費
1	H16 4.26	宇宙・航空機用複合材料の経済的高精度加工 技術の開発	柳下 福蔵	1000千円	10	7.7	「マイクロガスセンサ」の検出機構および 使用触媒に関する改善並びに技術確立に 関する共同研究開発	蓮實 文彦 望月 孔二 竹口 昌之	1年につき 100千円
2	5.19	プラスチック金型の高効率・高精度加工	柳下 福蔵 藤尾三紀夫 佐竹 利文 鈴木 茂樹	420千円	11	9.15	損失電流測定による水トリー劣化ケーブル の診断法の開発研究	遠山 和之	1000千円
3	5.21	電波の反射を利用した、舗装路面の状態 検知技術の開発	濱谷 進 加藤 繁 真鍋 保彦	500千円	12	12.13	プレス金型表面処理	永禮 哲夫 新富 雅仁	200千円
4	5.27	検査治具のCADによる自動設計及び加工 NCデータ変換	藤尾三紀夫	800千円	13	12.8	低コスト・高信頼性分散クラスターサーバ の開発	佐竹 利文 鈴木 茂樹	100千円
5	5.26	抗原の特異的エピトープに対する抗体の 作成	蓮實 文彦	500千円	14	12.20	エボキシハイドロラーゼ生産菌の探索	竹口 昌之	500千円
6	5.26	酵素センサーを用いた難培養性病原微生物 検出法の開発	蓮實 文彦	500千円	15	7.29	馬鈴薯澱粉工場における産業廃棄物の有効 利用について	蓮實 文彦	500千円
7	5.26	大腸癌モニター用物質とその測定用キット の開発に関する研究	蓮實 文彦	500千円	16	7.15	電力ケーブル絶縁体部分の劣化診断技術 に関する共同研究	遠山 和之	500千円
8	7.20	T I ボード無線ロボットシステムの開発	澤 洋一郎	500千円	17	H17 2.23	業務アルコール測定機器の性能評価	竹口 昌之	500千円
9	7.29	カルシウム清涼飲料水賞味期限	蓮實 文彦	100千円					

平成16年度の受託研究実績

通番	申請 日付	研究 題 目	沼津高専の 研究担当者	経 費	通番	申請 日付	研究 題 目	沼津高専の 研究担当者	経 費
1	H16 6.23	ペーパーラジック由来セルロースに特異的な 熱安定セルラーゼを用いたペーパーラジック の資源化	蓮實 文彦	1500千円	3	7.1	新規大腸がんマーカーの探索とそれを 用いた診断薬の開発	蓮實 文彦 芳野 恭士 竹口 昌之 蓮科 知之	4000千円
2	9.1	無線テレメトリ受信データの収録及びインター ネットによるユーザ配送システムの研究	長澤 正氏	250千円	4	12.24	茅野市駒形遺跡の研究	望月 明彦	5,024,250円
					5	12.1	転倒防止シールの性能評価	鄭 萬溶	200千円

平成16年度の科学技術相談実績

番号	日付	相 談 内 容	対応者	学 科	番号	日付	相 談 内 容	対応者	学 科
1	H16 4.7	マイクロ波の発振・受信方式、反射特性	濱屋 進	電気電子	18	8.4	共同研究打ち合わせ	柳下 福蔵 藤尾三紀夫	制御情報
2	4.9	複合はりにおける3層接着シートの応力 分散効果の解析	小林 隆志	機 械	19	8.10	ものづくり支援ネットワーク事業委員の依頼	柳下 福蔵	制御情報
3	4.21	電池封口用コンパウンドの成分と特性及び製法	小林 美学	物 質	20	8.10	レイニーの精密加工について	柳下 福蔵	制御情報
4	4.23	S G ベースの理論解析について	柳下 福蔵	制御情報	21	9.22	携帯電話を活用した非常時警報システムの開発	柳下 福蔵 鈴木 茂樹	制御情報
5	5.14	赤外線放射率可変素子について	柳下 福蔵	制御情報	22	9.29	ペルチェ素子を用いた温冷湿布装置の開発基本調査	望月 孔二	電気電子
6	5.18	共同研究の打ち合わせ	遠山 和之	電子制御	23	10.7	表面張力についての考察	勝山 智男	教 養
7	5.24	カーボンポジティブ製風力発電設備の開発	柳下 福蔵	制御情報	24	10.19	液晶ディスプレイ昇降装置	小林 隆志	機 械
8	6.2	茶殻の有効利用方法	後藤 孝信	物 質	25	11.4	封緘用糊のリサイクル向け材質改良	押川 達夫	物 質
9	6.4	バイオ式生ゴミ処理機におけるバイオの働き	蓮實 文彦	物 質	26	11.18	銅パイプのプレス成形	柳下 福蔵	制御情報
10	6.18	道路のアスファルト舗装面切断用工具の開発	柳下 福蔵	制御情報	27	11.22	物体の振動エネルギー	三谷祐一朗 村松 久巳	機 械
11	6.21	緑茶中のカテキン類と没食子酸の抗酸化 能の比較	芳野 恭士	物 質	28	11.26	電場処理	柳下 福蔵	制御情報
12	6.22	CFRP・GFRPの経済的高精度加工技術の開発	柳下 福蔵	制御情報	29	12.7	温間（熱間）鍛造装置の開発	柳下 福蔵	制御情報
13	6.28	CFRP部品の利用拡大について	柳下 福蔵	制御情報	30	H17 1.5	海洋微生物を応用した植物活性液の肥料登録上の問題点	蓮實 文彦	物 質
14	6.30	実験器具の地震による倒壊防止に関するデータ採取	鄭 萬溶	電子制御	31	1.5	開発中の有機肥料の問題点	蓮實 文彦	物 質
15	7.5	清涼飲料水の保存期限	蓮實 文彦	物 質	32	1.27	日本刀形状の非接触測定及び3次元CADデータ化	藤尾三紀夫	制御情報
16	7.24	共同研究の可能性に関する打ち合わせ	柳下 福蔵 藤尾三紀夫	制御情報	33	2.1	ガスバーナー火口の精密な形状測定	藤尾三紀夫	制御情報
17	7.25	アクチュエータシステム	柳下 福蔵	制御情報	34	2.3	材料（FC200）及び加工応力割れ原因	山本 治利	コーディネーター

(出典：地域共同テクノセンターニュース 創刊号)

(分析結果とその根拠理由) 優れている。全学で共通的に利用する機械実習工場，総合情報センター及び地域共同テクノセンターに求められる教育支援サービスは，設置目的どおり機能しているばかりでなく，設備の充実を図り多様な要求に応えられるよう工夫しており，利用状況も充実している。

観点 2-2-①：教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

(観点に係る状況) 教育課程全体を検討する組織として教務委員会を設置し(資料 2-2-①-1)，本校の教務に関する重要事項を審議している。委員の構成としては，副校長(教務主事)を委員長とし，教養科長を含めた各学科長，専攻科長，図書館長，教務主事補，学生課長で構成され，教育課程の編成等に関する企画・調整を行っている(資料 2-2-①-2)。

各学科等においては，定期的に学科会議等を開催し，教育指導上の課題・情報等を報告・検討し，全校的な検討が必要な場合には，教務委員会あるいはその下部組織である教務主事補会議(教務主事と教養科及び各学科の教務主事補で構成)で審議・検討することとなっている(資料 2-2-①-3)。専攻科においては，企画運営委員会を中心にカリキュラムの検討が行われている(資料 2-2-①-4)。

また，教育課程の全般の見直しについては，教員会議等の審議を経て，校長を委員長とする総務委員会が行うこととなっている。

資料 2-2-①-1：教務委員会規則

○沼津工業高等専門学校教務委員会規則

(昭和 49.4.1 制定)

最終改正 平成 17.4.13

第 1 条 沼津工業高等専門学校の教務に関する重要な事項を審議するため，教務委員会(以下「委員会」という。)をおく。

(組織)

第 2 条 委員会は，次の委員をもって組織する。

- (1) 副校長(教務主事)
- (2) 教務主事補
- (3) 学科長，教養科長及び専攻科長
- (4) 図書館長
- (5) 本校教員で校長が任命した者

(審議事項)

第 3 条 委員会は，校長の諮問に応じ，次の事項を審議する。

- (1) 教育課程及び授業時間割の編成に関すること。
- (2) 学校行事に関すること。
- (3) 学生の教科履修に関すること
- (4) 入学，退学，編入及び転科等に関すること。
- (5) 指導要録等教務記録に関すること。
- (6) その他教務に関し必要と認められること。

(委員の任期)

第4条 委員は、校長が任命し、その任期は1年とする。ただし、再任は妨げない。

2 補欠により選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会の委員長は、副校長（教務主事）とする。

2 委員長に事故あるときは、教務主事補がその職務を代行する。

(委員会の開催)

第6条 委員長は、必要と認めたとき委員会を開催し、その議長となる。

(小委員会)

第7条 委員長が必要と認めたときは、適時に小委員会をおき、委員長から委嘱された者は、指定された事項について調査及び研究し、委員会に報告するものとする。

(委員以外の者の委員会への出席)

第8条 委員長が必要と認めたときは、その都度委員以外の者に委員会への出席が求め、その意見をきくことができる。

(校長への報告)

第9条 委員長は、委員会で審議された事項を、校長に報告するものとする。

(幹事)

第10条 委員会に幹事をおき、会務を整理する。

2 幹事は、学生課長をもってあてる。

(委員会の事務)

第11条 委員会の事務は、学生課教務係において処理する。

(雑則)

第12条 この規則の実施について、この規則の規定によりがたいときは、委員会の審議を経て、委員長が定めるものとする。

附 則

この規則は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月14日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成17年4月13日から施行し、同年4月1日から適用する。

(出典：本校規則集)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0060_kyoubu-iinkai.htm

資料 2－2－①－2：教務委員会開催案内

平成17年 5 月 23 日

教務委員会委員 各位

副校長（教務主事）

第 1 回教務委員会の開催について

標記のことについて下記のとおり開催いたしますので出席願います。

なお、欠席される場合はあらかじめ教務係まで連絡願います。

記

日 時： 平成17年 6 月 3 日（金） 14：00～

場 所： 学生課小会議室（共通棟 1 F）

- 議 題：
1. 再評価について
 2. 公休の認定について
 3. 技能審査の合格における単位修得の認定について
 4. 平成 16 年度の成績訂正について
 5. その他

（出典：平成17年度第 1 回教務委員会開催案内メール）

資料 2－2－①－3：教務委員会・教務主事補会議の実績

平成 16 年度議事録

1. 第 1 回教務主事補会議議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2004. 6. 3 掲載
2. 第 1 回教務委員会議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2004. 6. 25 掲載
3. 第 2 回教務主事補会議議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2004. 9. 16 更新
4. 第 3 回教務主事補会議議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2004. 9. 6 掲載
5. 第 2 回教務委員会議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2004. 9. 24 掲載
6. 第 4 回教務主事補会議議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2005. 3. 14 掲載

7. 第 5 回教務主事補会議議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2004. 12. 9 掲載
8. 第 6 回教務主事補会議議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2004. 11. 17 掲載
9. 第 7 回教務主事補会議議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2004. 11. 22 掲載
10. 第 3 回教務委員会議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2004. 12. 8 掲載
11. 第 8 回教務主事補会議議事録 [doc](#) 教務委員のみアクセス可 2005. 1. 7 掲載
12. 第 9 回教務主事補会議議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2005. 1. 26 掲載
13. 第 4 回教務委員会議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2005. 2. 14 掲載
14. 第 5 回教務委員会議事録 [TXT](#) 教務委員のみアクセス可 2005. 3. 14 掲載

(出典：学内限定ウェブサイト)

<https://itwg.numazu-ct.ac.jp/kyoumu/kyoumuiin/index.htm>

資料 2－2－①－4：専攻科担当教員会議規則（抜粋）

○沼津工業高等専門学校専攻科担当教員会議規則

（平成 15. 6. 11 制定）

最終改正 平成 16. 4. 14

（企画・運営委員会）

第 6 条 会議の円滑な運営を図るため、企画・運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、専攻科長及び第 3 条第 2 号の構成員のうちから専攻科長が指名する者をもって組織する。

(出典：本校規則集)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0130_senkouka-kyoukankaigi.htm

（分析結果とその根拠理由）相応である。教育課程等教務に関する重要な事項は、教務委員会が中心となって企画・調整しており、十分機能している。

観点 2－2－②：一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

（観点に係る状況）各学科とも 1・2 年生の担任には教養科の教員を充てており（資料 2－2－②－1），定期試験の後などの学科会議には 1・2 年生の担任も出席し，成績を含めた生活全般について意見交換を行い，学生指導に教養科と各専門学科の教員が連携して当たっている。一般科目を担当する教養科と専門科目を担当する各専門学科は，教務委員会あるいは教務主事補会議において情報交換及び意見交換を行っており，その内容はそれぞれの学科等会議において全教員に周知されている。また，全校的な重要課題については，全教員が参加する教員会議において報告・討議が行われ，周知徹底されている。尚，応用数学・応用物理の定員を教養科に取り込み数学・物理の教育の一貫性が損なわれないよう配慮している。

資料 2 - 2 - ② - 1 : 教養科教員一覧表

教 養 科

■教員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(■専門分野)	■校務分担
教授	文学修士	勝呂 譲	英語(英語教育)	
教授	文学修士	山岸 文明	英語(英語教授法・英文学)	教養科長, サフネット総括責任者
教授	工学博士	浦崎 巖	化学・国際教養(物理有機化学)	
教授	文学修士	野澤 正信	哲学・東洋思想史・国際教養(インド哲学)	校長補佐(学生主事)
教授	教育学修士	谷 次雄	数学(トポロジー)	図書館長, サフネット総括責任者, 教育後援会連絡担当
教授	博士(理学)	勝山 智男	応用物理・工業力学(統計物理学[実験])・国際教養	学生主事補, 学生会顧問
教授	文学修士	大久保 清美	ドイツ語 I A・ドイツ語 I B・地球環境学概論(ドイツ地域文化研究)	校長補佐(寮務主事)
教授	博士(理学)	相原 義弘	数学・応用数学(複素解析 及び 複素幾何)	D1 担任
教授	文学修士	坂本 信男	国語・文学特論(後期古代語・後期古代文学)	S1 担任
教授	工学修士	西垣 誠一	数学(実関数論)・応用数学	教務主事補
教授	理学修士	遠藤 良樹	数学・応用数学・国際教養(幾何学的測度論)	寮務主事補, 後期寮監代行, サフ ネット管理者
助教授	理学修士	待田 芳徳	数学・応用数学(幾何学・数学物理)	
助教授	博士(学術)	大石 加奈子	国語・文学特論・国際教養(テキスト分析・コミュニケーション科学)	C2 担任
助教授	教育学修士	塩谷 三徳	英語(英語教授法)	学生主事補, 学生会顧問, E2 担任
助教授	体育学修士	佐藤 誠	体育(スポーツ運動学・体操競技)	D2 担任
助教授		渡邊 志保美	体育(運動生理学・体育実技)	M1 担任
助教授	博士(理学)	住吉 光介	物理(宇宙核物理学)・国際教養	専攻科企画運営委員, C1 担任
助教授	博士(理学)	鈴木 克彦	応用物理・物理実験(ハドロン物理)	学生主事補, S2 担任
助教授	修士(理学)	佐藤 志保	数学(微分幾何学)	学生主事補, E1 担任
助教授	修士(教育学)	村上 真理	英語(英語教授法)	寮務主事補, M2 担任
講師		水口 好美	数学(オペレーションズ・リサーチ)	寮監
講師	修士(文学)	佐藤 崇徳	地理・政治経済・(地理学・地理情報システム)	サフネット管理者
講師	修士(文学)	平田 陽一郎	歴史(中国史)・歴史特論	寮務主事補, 後期寮監代行

講師	修士(文学)	藤井 数馬	英語(英語学)	寮務主事補
講師	博士(理学)	松澤 寛	数学(偏微分方程式論),応用数学	寮務主事補

(出典：本校公式ウェブサイト)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kyoukan_G.htm

(分析結果とその根拠理由) 相応である。教務委員会あるいは教務主事補会議における情報交換・課題審議等は有効に機能しており、教養科と各専門学科の連携は、学校の教育目的を実現する上で必要な連携が執られている。

観点 2－2－③：教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況) 本校では、5 学科 5 学年の計 25 学級すべてに学級担任教員を配置し、担任は学級日誌などを通して学生一人一人の学習状況を把握するよう努めており、科目担当教員等と連携しつつ教育活動の一層の円滑化を図っている(資料 2－2－③－1 及び 2)。その学級担任の教育活動を支援するものとして担任マニュアルを作成している(資料 2－2－③－3)。また、各学年の学級担任の中に代表を置くことにより、各学年の中で横のつながりを持ち意見交換のできる場を設けている。更に、担任の学生指導の支援として学生生活支援室(資料 2－2－③－4)の果たしている役割も大きく、殊に学生の精神面での問題等学級担任のみの知識では及ばないようなことに関して、相談等により非常勤のカウンセラーがその支援に当たっている。また、課外活動においても、学生会及び各クラブに複数の顧問教員を配置し、分担して指導に当たる体制となっている(資料 2－2－③－5)。成績の取りまとめ、定期試験時間割の作成、あるいは課外活動に関する支援等、学生課の支援体制が教員の教育活動を支えている(資料 2－2－③－6)。

資料 2—2—③—1：各種委員会名簿

平成 17 年度 各種委員会委員名簿

		平成 17 年 4 月 1 日 現在									
総務委員会		濱屋 進 大島 茂 柳下 福蔵	野澤 正信 蓮實 文彦 事務部長	大久保清美 山岸 文明 庶務課長	大賀 喬一 森井 宣治 会計課長	江間 敏 谷 次雄 学生課長	舟田 敏雄 高橋 儀男 (事務)庶務係				
学級担任		機械工学科 渡邊 志保美	電気電子工学科 佐藤 志保	電子制御工学科 相原 義弘	制御情報工学科 坂本 信男	物質工学科 住吉 光介	学年代表 坂本 信男				
	1	村上 真理	塩谷 三徳	佐藤 誠	鈴木 克彦	大石加奈子	佐藤 誠				
	2	井上 聡	加藤 繁	大原 順一	鈴木 茂樹	竹口 昌之	加藤 繁				
	3	三谷祐一朗	高野 明夫	鄭 萬溶	長谷 賢治	後藤 孝信	長谷 賢治				
	4	村松 久巳	望月 孔二	長澤 正氏	吉野龍太郎	小林 美学	吉野龍太郎				
教務委員会		○ 濱屋 進 西垣 誠一 山岸 文明	西田 友久 大賀 喬一 森井 宣治	西村 賢治 江間 敏 谷 次雄	川上 誠 舟田 敏雄 学生課長	長谷 賢治 大島 茂 (事務)	望月 明彦 蓮實 文彦 教務係				
自己点検・評価委員会		○ 久賀 重雄 舟田 敏雄	濱屋 進 大島 茂	野澤 正信 蓮實 文彦	大久保清美 山岸 文明	大賀 喬一 森井 宣治 (事務)	江間 敏 事務部長 専門員(企業実習担当)				
厚生補導委員会		○ 野澤 正信 大原 順一 佐藤 志保	大久保清美 鈴木 康人 学生課長	宮内 太積 押川 達夫	新富 雅仁 勝山 智男	加藤 繁 塩谷 三徳 (事務)	遠山 和之 鈴木 克彦 学生係				
寮務運営委員会		○ 大久保清美 事務部長	濱屋 進 学生課長	野澤 正信	大澤 和夫	遠藤 良樹 (事務)	水口 好美 寮務係				
寮務委員会		○ 大久保清美 江上 親宏 村上 真理 佐藤 誠	濱屋 進 大澤 和夫 平田陽一郎 加藤 繁	野澤 正信 大久保進也 藤井 数馬 長谷 賢治	永禮 哲生 渡辺 敦雄 松澤 寛 吉野龍太郎	嶋 直樹 葦科 知之 水口 好美 学生課長(事務)	大庭 勝久 遠藤 良樹 坂本 信男 寮務係				
図書室運営委員会		○ 谷 次雄 佐藤 志保	黒下 清志 大石加奈子	望月 孔二 庶務課長	澤 洋一郎	鈴木 康人 (事務)	葦科 知之 図書係				
総合情報センター運営会議		○ 濱屋 進 舟田 敏雄 柳下 福蔵	高橋 儀男 事務部長	野澤 正信 蓮實 文彦	大久保清美 山岸 文明	大賀 喬一 森井 宣治 (事務)	江間 敏 谷 次雄 専門員(事務情報化担当)				
総合情報センター委員会		○ 高橋 儀男 葦科 知之	嶋 直樹 住吉 光介	加藤 賢一 庶務課長	三谷祐一朗 青田 広史	澤 洋一郎 新吾 純一 (事務)	佐竹 利文 松尾 純一 専門員(事務情報化担当)				
尚友会館運営委員会		○ 野澤 正信 学生課長	濱屋 進 学生係長	大久保清美	事務部長	庶務課長	会計課長 学生係				
就職委員会		○ 久賀 重雄 蓮實 文彦 小林 美学	野澤 正信 山岸 文明 事務部長	大賀 喬一 村松 久巳 学生課長	江間 敏 望月 孔二	舟田 敏雄 長澤 正氏 (事務)	大島 茂 吉野龍太郎 学生係				
学生生活支援室		○ 浦崎 巖 学生課長	三谷祐一朗 松本 諦子	佐竹 利文	加藤美知代	渡邊 志保美 (事務)	八十川 徹 学生係				
広報委員会	高専だより	○ 坂本 信男 大石加奈子	黒下 清志 事務部長	西村 賢治 庶務課長	鄭 萬溶 学生課長	吉野龍太郎 (事務)	瀬尾 邦昭 庶務係				
	学校要覧	○ 望月 明彦 事務部長	西田 友久 庶務課長	西村 賢治 学生課長	大原 順一	柳下 福蔵 (事務)	西垣 誠一 庶務係				
研究報告委員会		○ 谷 次雄 山岸 文明	大賀 喬一	江間 敏	舟田 敏雄	大島 茂	蓮實 文彦				
地域共同テクノセンター運営委員会		○ 柳下 福蔵 押川 達夫	蓮實 文彦 勝山 智男	村松 久巳 事務部長	高野 明夫	澤 洋一郎 (事務)	藤尾三紀夫 専門員(企業実習担当)				
国際交流委員会		○ 久賀 重雄 舟田 敏雄 会計課長	濱屋 進 大島 茂 学生課長	野澤 正信 蓮實 文彦	大久保清美 山岸 文明	大賀 喬一 事務部長 (事務)	江間 敏 庶務課長 専門員(事務担当)				
国際交流委員会 外国人留学生部会		○ 濱屋 進 大島 茂 大原 順一 水口 好美	野澤 正信 蓮實 文彦 鄭 萬溶 村上 真理	大久保清美 山岸 文明 長谷 賢治	大賀 喬一 柳田 武彦 鈴木 茂樹	江間 敏 永禮 哲生 後藤 孝信 (事務)	舟田 敏雄 高野 明夫 新富 雅仁 専門員(事務担当)				
外国人留学生指導教員		柳田 武彦 長谷 賢治	永禮 哲生 後藤 孝信	高野 明夫 後藤 孝信	舟田 敏雄	大原 順一	鄭 萬溶				
動物実験委員会		○ 芳野 恭士 雨宮 博	後藤 孝信 鈴木 猛	蓮實 文彦	浦崎 巖	小林 美学 (事務)	庶務課長 庶務係				
組換えDNA安全委員会		蓮實 文彦	加藤美知代	竹口 昌之	庶務課長	雨宮 博 (事務)	庶務係				
環境保全委員会		○ 野澤 正信 蓮實 文彦	大久保清美 山岸 文明	大賀 喬一 森井 宣治	江間 敏 谷 次雄	舟田 敏雄 事務部長 (事務)	大島 茂 会計課長 庶務係				
毒劇物管理委員会		○ 蓮實 文彦 森井 宣治	大賀 喬一 事務部長	平林 紘治 会計課長	舟田 敏雄	大島 茂 (事務)	浦崎 巖 庶務係				
安全衛生委員会		○ 濱屋 進 杉山 賢一	大賀 喬一	渡辺 敦雄	三輪 史朗 (事務)	室伏 啓二 人 事 係	松本 諦子 施設 係				
スペース・コラボレーショ ン・システム事業委員会		○ 濱屋 進 蓮實 文彦	西田 友久 西垣 誠一	西村 賢治 学生課長	舟田 敏雄	川上 誠 (事務)	大澤 和夫 教務 係				

○印は委員長等、◇印は幹事を示す。

(出典：本校公式ウェブサイト)

<http://jimubu.numazu-ct.ac.jp/meibotou.htm>

資料 2—2—③—2：学級日誌様式

学級担任 教官印			月 日 曜日	天候		当番氏名	
授業科目名		教官名	学習内容の要点		遅刻者氏名		欠課者氏名
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
教室 清掃 当番	No. ～ No.	清掃 状況		本日の反省と所感			

(出典：学生課教務係)

資料 2—2—③—3：学級担任のための手引書表紙

学級担任のための リファレンスマニュアル

目次

まえがき	0
学級担任諸規定	1
I 学級運営について	
1 学級委員について	2
2 週番について	
3 「学生身上調査」について	
4 特別活動について	
5 学校行事について	
6 「学生指導要録」について	
7 その他	
II 学級員の指導について	
1 教務面	2
2 厚生補導面	
3 寮務面	
4 事務面	
～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～	
教務規則索引	5
学生便覧索引	8
学生指導要録取扱要領	11
〃別紙1（記入様式）	13
〃別紙2（行動及び性格の記録の観点）	14
〃別紙3（記入文例）	16
〃関連情報	

まえがき

高等教育機関としての高専教育の特色の一つに学級並びに学級担任制度がある。

初中等教育の小・中・高の3学校には、生徒に対する従来の学級担任制が確立されている。大学・短大には、これに類似の制度がある所もあれば、ない所もあり、あっても有名無実の所もあるように聞く。

定員40名に編成された学級をあずかり、5年間の一貫教育に、3年間の正課内特別活動に、校長と学生の懸け橋として、集団教育の実施者として、クラス員のチームワーク、学校内・学校外の生活指導、予習復習の指導に、学生の人間形成の大半を握っているのが学級担任である。

本マニュアルは、「学級担任に関する内規」が制定された時期に版した第一版を、その後の規則等改定に合せ内容を加除訂正しOn_line対応に改定したものである。学級担任としての留意点をあげるとともに、諸規則閲覧時の便を目的とした索引を併載し、新任教官あるいは初めて学級担任となった教官の参考に供する。

 [Return to Site Home page](#)

 [Go to NCT Home page](#)

http://202.236.218.194/nctfaculty/facul_mans/tanninman/body.htm

（出典：学級担任のためのリファレンスマニュアル（冊子））

資料 2—2—③—4：学生生活支援室規則

○沼津工業高等専門学校学生生活支援室規則

(平成 15.11.12 制定)

最終改正 平成 17.3.9

(設置)

第 1 条 沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，学生生活支援室（以下「支援室」という。）を置く。

(業務)

第 2 条 支援室は，次に掲げる業務を行う。

- (1) 学習，進路，対人関係，精神衛生上の問題等，本校学生個人が抱えている問題に対する相談及び援助に関すること。
- (2) その他学生の生活支援に必要な資料の収集，作成，提供等に関すること。

(組織及び任期)

第 3 条 支援室は，次に掲げる支援室員で組織する。

- (1) 室長
- (2) カウンセラー
- (3) 教員 若干名
- (4) 学生課長
- (5) 看護師

2 前項第 1 号及び第 3 号に掲げる者は，副校長（教務主事），校長補佐（学生主事），校長補佐（寮務主事），各学科長，教養科長及び専攻科長以外の教員のうちから校長が任命する。

3 第 1 項第 1 号及び第 3 号に掲げる者の任期は，1 年とし，再任を妨げない。ただし，欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

(任務)

第 4 条 室長は，支援室の業務を統括する。

2 室長以外の支援室員は，室長の命を受け，支援室の業務に従事する。

(報告及び協力)

第 5 条 室長は，必要に応じて運営状況を校長に報告する。

2 支援室員は，必要に応じて関係教職員に協力を求めることができる。

3 支援室員以外の教職員が，支援室における相談若しくは援助等が必要と思われる学生を認めたときは，支援室に連絡するものとする。

(秘密の保持)

第 6 条 支援室員及び前条第 3 項により支援室に連絡した教職員は，業務を処理する上で知り得た個人の秘密を他に漏らしてはならない。

(事務)

第 7 条 支援室の事務は，学生課において処理する。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか，支援室の運営に関し必要な事項は，別に定める。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 14 日から施行し、同年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：本校規則集)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0941_gakuseisiensitu.htm

資料 2-2-③-5 : クラブ・同好会顧問一覧表

平成 17 年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員

クラブ・同好会名	連絡責任者	顧 問 教 員 名				
陸 上 競 技 部	渡邊志保美	大久保清美	牛丸 真司	野澤 正信		
ソ フ ト テ ニ ス 部	塩谷 三徳	佐藤 崇徳	住吉 光介			
バ レ ー ボ ー ル 部	高野 明夫	加藤 繁				
バスケットボール部	遠山 和之	西村 賢治				
野 球 部	大久保進也	鈴木 克彦	勝山 智男	藁科 知之	渡辺 敦雄	藤井 数馬
卓 球 部	高橋 儀男	勝呂 譲				
柔 道 部	西垣 誠一	吉野龍太郎	松澤 寛			
剣 道 部	遠藤 良樹	谷 次雄	佐藤 志保			
サ ッ カ ー 部	平田陽一郎	押川 達夫	永禮 哲生	大石加奈子	江上 親宏	
ラ グ ビ ー 部	井上 聡	黒下 清志	鄭 萬溶	小林 隆志		
体 操 部	佐藤 誠	浦崎 巖	江間 敏			
水 泳 部	小林 美学	山岸 文明	相原 義弘	新富 雅仁		
合 気 道 部	長谷 賢治					
テ ニ ス 部	竹口 昌之	川上 誠	西田 友久	若松 勝寿		
ス キ ー 部	嶋 直樹	川上 誠	大原 順一			
ハンドボール部	望月 孔二	大島 茂	西田 友久			
弓 道 部	芳野 恭士	大賀 喬一	柳田 武彦			
空 手 部	宮内 太積	柳田 武彦	後藤 孝信			
バドミントン部	加藤 賢一	押川 達夫	坂本 信男			
トライアスロン部	三谷祐一朗					
写 真 部	後藤 孝信					
吹 奏 楽 部	鈴木 茂樹	蓮実 文彦				
美 術 部	長澤 正氏	望月 明彦				
囲 碁 将 棋 部	浜渦 允紘					
茶 道 部	村上 真理	加藤美知代				
ゴ ル フ 同 好 会	岩谷 隆史	黒下 清志				
オリエンテーリング同好会	休部中					
女子バレーボール同好会	大庭 勝久	加藤美知代	長澤 正氏			
女子バスケットボール同好会	佐竹 利文					
フットサル同好会	藤尾三紀夫					
ソフトボール同好会	嶋 直樹					
E S S 同 好 会						
合 唱 同 好 会	佐藤 志保	浦崎 巖				
天 文 同 好 会	嶋 直樹	瀬尾 邦昭	勝山 智男			
軽 音 楽 同 好 会	佐藤 志保					
機 械 工 学 同 好 会	村松 久巳					
環 境 問 題 研 究 会	西村 賢治					
ソフトウェア創作同好会						
映 画 製 作 同 好 会						
ロ ボ コ ン 同 好 会	吉野龍太郎	望月 孔二	柳田 武彦			
学 生 会	勝山 智男	大原 順一	塩谷 三徳			

(出典：本校公式ウェブサイト)

<http://jimubu.numazu-ct.ac.jp/meibotou.htm>

資料 2—2—③—6：学生課内役割分担

学 生 課**学務室担当事務**[専門員(学務担当)](内線5732／gakum-ss@numazu-ct.ac.jp)

入学者選抜
 学生の修学指導
 教育課程の編成・実施
 学籍
 外国人留学生の受入, 学生の派遣

[教務係](内線5733／kyoumu@numazu-ct.ac.jp)

入学者選抜
 教育課程
 授業及び休業
 校外実習・見学
 試験
 成績の評価, 進級, 卒業, 留年等
 学級担任
 学生及び卒業生の学籍並びに成績等諸証明
 教科書及び教材, 教具
 学生の課外教養行事
 授業料

学生係担当事務(内線5734／gakusei@numazu-ct.ac.jp)

課外活動
 学生生活
 厚生補導
 福利厚生
 奨学金
 就職関係
 保健衛生
 学割証, 通学証明書発行
 授業料免除
 下宿・アルバイト紹介
 学生相談

寮務係担当事務(内線5736／ryoumu@numazu-ct.ac.jp)

学寮の維持保全, 防災警備
 入退寮
 寮生の食事
 在寮証明
 寮費
 寮生宛て小荷物等の受領

(出典：本校公式ウェブサイト)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/office/bunsyoun.htm>

(分析結果とその根拠理由) 優れている点もあるが、改善の余地もある。学級担任教員は、本校における教育活動を学生個人単位で捉え、支援している。その学級担任の教育活動を支援するものとして学級担任マニュアルは有用なものであり、学生指導を各学級担任の思いつくところのみ任せず、共通して行わなければならないことなどを遺漏なくまとめたものとして大変意義のあるものである。ただし、平成9年度以降見直しが行われておらず、一部に現状とそぐわない点が見られ、早急な見直しが必要とされる。また、優れた点の一つとして、学生生活支援室、殊にカウンセラーの専門的立場からのアドバイスが学級担任の学生指導の手助けとして有効に働いている点が挙げられる。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）学級担任マニュアルを早い時期から明文化しており、学級担任の経験が浅い教員にあっても学生指導がある程度遺漏なく行えるようにしてきたこと、及び学級担任同士の共通認識が保証されてきたことは、優れている。また、カウンセラーの専門的立場からのアドバイスを受けることができる点も学級担任の学生指導を支援している優れた点である。

（改善を要する点）優れた点でもある学級担任マニュアルの明文化であったが、平成９年度以降見直しが行われておらず、文言等も含めて一部現状とそぐわない点が出てきてしまっているため、見直しが必要である。

（３）基準２の自己評価の概要

本校は、機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科、物質工学科の５学科からなり、これを各科共通の基礎教育を担当する教養科が支え、本校の目的である「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」を念頭に、工業高等専門学校として適切な学科構成をなしている。また、５年間の準学士課程の上に、更に２年間の学士課程としての専攻科があり、機械・電気システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、応用物質工学専攻の３専攻からなっている。これら３専攻が単一の技術者教育プログラムである「総合システム工学」を構成していて、その要件を定めて教育目標を達成するためのカリキュラム作成の指針としている。

本校には、これらの教育を補助・補完する全学的な施設として、機械実習工場・総合情報センター・地域共同テクノセンターが設置されている。機械実習工場は、全学科の学生を対象に機械工学の基礎教育用施設として機能しており、総合情報センターは、情報処理機器の活用能力を養う情報処理教育を行う場でもあるが、昼休みや放課後等の授業で使用されていない時間帯には、学生の自学自習の場としても活用されている。また、地域共同テクノセンターは、最新の設備と研究環境の中で、総合開発能力のある学生の育成とともに、地域産業界等との共同研究・受託研究等を推進し、地域産業の振興にも寄与している。

これら教育課程全体を企画調整するための組織として、教務委員会が設置されており、教務に関する重要事項が審議されている。また、審議事項の素案作りや各学科から出された意見の取りまとめや調整のため、教務主事と教養科及び各学科から一名ずつ出ている教務主事補からなる教務主事補会議が有効に機能している。専攻科においては、企画運営委員会を中心にカリキュラムの検討が行われている。

一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携としては、各学科とも１・２年生の学級担任に教養科教員を充てており、定期試験の後などの学科会議には１・２年の学級担任も出席し、成績を含めた生活全般について意見交換を行い、学生指導に連携して当たっている。教育活動を支援する体制としては、担任の学生指導の支援としてカウンセラーの専門的アドバイスがあり、また、各学年の学級担任の中に代表をおくことにより、各学年の中で横のつながりを持ち意見交換のできる場を設けたりしている。これらの事務的な裏付けとして、事務部学生課が大きな役割を果たしている。